

こまつな

「こまつな」には、「こまつな」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」または「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。(非結球あぶらな科葉菜類の項目参照)

————— 発病・加害時期
 ═══════ 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普	通	〔は種 収穫〕 パイプハウス											
萎黄病	病												
白さび病	病												
根こぶ病	病												
白斑病	病												
リゾクトニア病	病												
アオムシ	シ												
アブラムシ	類												
キスジノミハムシ	シ												
ケラ	ラ												
コナガ	ガ												
ネキリムシ	類												
ハイマダラメイガ	ガ												
ヨトウムシ	類												

萎黄病

留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壤消毒を行う。(XⅢ土壤消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前/1回】

- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

白さび病

留意事項

- 1 早春や晩秋に発生が多い。
- 2 降雨が多く、湿度が高い時期に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) 4 1 1 【9kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
 - ・ [リドミル粒剤2](#) 4 【10kg/10a 全面土壌混和 は種前（21日）/1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2000倍 7日/2回】

根こぶ病

留意事項

- 1 春～秋に発生するが、夏の高温期にはやや少ない。
- 2 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 —
【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前/1回】
- 5 は種前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) 2 9 【30kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
- 6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

白斑病

留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く春期や秋期で発生しやすい。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2000倍 7日／2回】

リゾクトニア病

留意事項

- 1 苗立ち枯れ症状は高温期に多発する。尻腐れ症状、葉腐れ症状は低温期に収穫する場合に発生が多い。
- 2 土壌伝染する。
- 3 高温多湿条件で発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 は種前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) 2 9
【立枯病（リゾクトニア菌） 30kg／10a 全面土壌混和 は種前／1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) 1 4 【1000倍 14日／2回】

アオムシ

留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2000倍 3日／1回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A （IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
- 2 は種前～は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A 【6kg/10a 作条混和 は種時/1回】
 - ・ [ジェイエース粒剤](#)、[スミフェート粒剤](#) 1 B
【3～6kg/10a 作条散布後土壌混和 は種前/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【2000～4000倍 3日/3回】
 - ・ [ランネート45DF](#) 劇 1 A 【1000倍 14日/3回】

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】
- 3 発生を認めたら「非結球あぶらな科葉菜類」に登録のある薬剤を散布する。

ケラ

防除方法

- 1 は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アファーム乳剤](#) 6 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2000倍 3日/1回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ネキリムシ類

留意事項

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。
- 2 ダイアジノン粒剤5の成分ダイアジノンを含む農薬の総使用回数は1回。

防除方法

- 1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1B
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時又は定植時/1回】または
【6kg/10a 土壌表面散布 出芽時/1回】

ハイマダラノメイガ

留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [ラディアントSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ 2500~5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日/2回】
 - ・ **BT剤** 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。